

# 山岳科学総合研究所 友の会会報

2015年7月 第17号



## も く じ

2015年度友の会通常総会より	2
上高地ステーションの養魚場を元気に 小林久雄	2
養魚池元気化PG 「池の清掃スタート」 小林久雄	3
第19回現地研修会『北信濃 鍋倉のブナ林と秋山郷を訪ねる』松尾正徳	4
第20回現地研修会『涼を誘うツブ 玉づくりと乗鞍の名瀑をめぐる』小林久雄	5
編集後記	5

## 2015 年度友の会通常総会より

2015 年度友の会通常総会が4月5日に開催されました。

2014 年度の事業報告と収支決算及び監査報告、2015 年度の事業計画及び予算案が審議されました。また、「会の名称変更」に関する議題も審議されました。

名称は「信州大学山岳友の会」とし、信州大学の「山の環境研究センター」に事務局を置くことになりました。

引き続き、丸山祥司氏(自然写真家)より「憧憬の森講演会」が開催され、花や雪形などの美しい数々の写真が手渡しで回覧されて熱く語られました。特に雪形の写真は丸山さんの独壇場でした。

講演会後は、場所を移して恒例の懇親会を開催しました。



## 上高地ステーションの養魚場を元気に

3月1日、冷たい雨の日曜日でしたが、友の会有志9名は年度末の忙しい中を、ご無理いただき東城先生に勉強会をお願いしました。上高地 ST の養魚池について友の会で何か活用できないものか? 「環境アセスメント」とか「環境モニター」の活用や利用などのお話いただきました。

国立公園内で文化遺産の施設だったりして、色々と難しさはわかりました。120年前に嘉門次やウエストンの時代に思いをめぐらせ、イワナが泳ぐ養魚池を夢見てみました。しかし、水量の把握や水温・水質の調査や下流への影響など課題ばかりです。まずは池の整備と清掃やイケスの状態把握などから少しずつ思いをめぐらせました。登山道脇で大きな状況の変更には問題が多いことや、水質のサンプル調査や影響の把握など課題は山積ですが、何かひとつずつ「夢を持って豊かな養魚池を」、と語りあいました。

友の会の事業計画に盛り込めるように少しずつ挑戦していきたいものです。

### 行動計画の趣旨

- ・《環境モニター》上高地の環境変化の考察 (河川・水質・気象)
- ・魚(イワナ)の生態調査と過去に養魚場として利用された事の調査

#### ① 養魚場を元気にする

- ・イケスの清掃
- ・泥上げと入水量の安定化
- ・イケス出口の堰き止め改善による豊かに養魚池復元

#### ② 実施計画素案

- ・県水産試験場の「信州サーモン」「信州大イワナ」の養魚の可能性を探る
- ・水温と水量(水位調査) (年間の動向)
- ・養魚槽の清掃と整備 (泥上げ処理など)

#### ③ 具体的なスケジュール

- ・2015.5月、6月 養魚槽の清掃と整備
- ・県水産試験場の「講演計画」策定
- ・2015.7月 養魚池元気化計画の具体化

#### ④ 課題

- ・養魚池元気化の参加者募集
- ・必要な材料の運搬
- ・作業必需品の選定

#### ⑤ 勉強会

- ・年間に1回予定



小林 久雄

## 春の日の清掃 『養魚池元気化 PG』

5月10日(日)

兼ねてから気がかりだった上高地S Tの養魚池。

枯れ木が落ち、落ち葉が落ち、池の様子が少し変!!

荻野、田下、滝沢、小林と鈴木教授は「晴れた五月にドブさらい」。

一の池から四の池まで枯れ枝を拾い上げ、イケスの泥を掻き揚げて奮闘。

二の池には魚も多かったので.....防鳥アミを設置して環境整備しました。

以前はバイカモも繁殖していたので、二の池から一の池にも移植。

気懸かりは以前になくアオモのような繁殖が...水質変化・水温上昇..... 少しずつ調べてみましょう。

水温測定を開始、水質や藻の種類なども調べてみましょう。

矢張り養魚池は綺麗で魚が悠々と泳ぐのが健康的で元気が出る。

『養魚場元気化計画』いよいよスタートです。

冷たい・汚い・辛い・面倒くさい・何もしないのが楽?では始まらない。

明るい未来を夢見て “ポジティブ”に行動してみると..... 楽しくなるネ。



小林 久雄

## 第19回現地研修会「北信濃 鍋倉のブナ林と秋山郷を訪ねて」

車窓の向こうで松本の街がゆっくりと流れ始める。列車が駅を離れると缶ビールを空けて現地研修会、その旅の終わりをひとり乾杯する。冷たいものが胃に落ちて重い躰が座席に沈む。終えたばかりの二日間があれこれ甦える。

北信濃は新緑が明るい緑一色であった。新潟との県境を巡りながら、仰ぎ見た信越五山の山々。JR飯山線、千曲川と平行しながら山あいには幾つもの集落や麓に広がる田畑、山棲みに守られた暮らしぶりを思う。深い森が拘った「鍋倉」は、確かにブナの森が根雪を蓄え、暮らしの水を麓へと運んでいる。そのブナの芽が落ちて楊枝のような細い枝までに10年の歳月、寿命は3百年余りと聞いた。静かな森の気が遠くなるような時間。この森が人の手で管理され、守られて次の世代にも無事に引き継がれるようにと心から願う。森で耳にしたアカショウビンの声。森太郎、森姫に会えなかったのは少々心残りであった。

研修会に参加するといつも感心すること。研究室のみにあらず、地域や自然に根を下ろすように貢献されている姿。雪と氷の博士を筆頭に、多くのユニークな教授陣を揃えた最高学府の活動とその成果。ブナ博士と林を巡りながら、短い時間の中でまた今回もその感を強くする。

「秋山郷」はやはり驚きの里であった。県境の道は災害で一方が塞がれるとたちまち袋小路の郷である。長野県の秘境を今回は新潟県からの往復路となった。それにしても、山深い里に人の暮らしが定着するさまは何とも理解し難い。名だたる、それも豪雪地帯である。その起源は平家の落人伝説や秋田県から獣やイワナを追ってマタギがこの地に定着したものだとか。「秋山郷総合センター」での生活用具の展示や説明に足が何度も止まってしまう。河原に温泉が湧く「切明」を最後に訪ねた。中津川沿い最上流の河原に遠く人の影を見る。その昔、マタギもまた凍えた躰をこの河原に休めたのかと、橋の彼方に想像する。

昨夜の宿、野沢温泉「じよんのびな宿 よえむ」は「ゆったり寛げる」まこと良きお宿であった。伺えば濁沢とこの温泉地は「友の会」会長とのえにし深い、双方に名士有する土地柄と知る。スキ

一のふる里らしく山肌に立派なジャンプ台が備わり、何本ものリフトが山頂高く掛けられている。毎日曜には朝市が開催され、今朝も地元ならではの山菜や手作りの品が並べられて多くの観光客で賑わいを見せていた。お仲間と温泉マップ片手に巡った温泉施設は、危うくこの身がもう少しで温泉卵と成りかけたほど、何処もが熱湯で湯量豊富であった。お昼を頂戴した「苗場荘」は、山菜ソバに堪能したのはもちろん、三百年もの面影を今に刻んだ真っ黒な天井と柱の説明を受けて、前日のブナの寿命を重ねたりもした。

研修の旅の帰路はこうしていつもみやげ話しが豊富、心ゆたかになる。列車が最後のトンネルを過ぎると闇の向こうに街々の灯りが点在を始める。この研修の企画、ご案内頂いた皆様顔を思い浮かべて感謝の気持ちがあらためて湧く。そろそろ乗り換えの準備を始めることにしよう。信州への愛着がまた深められたように思う。

松尾 正徳

## 第20回現地研修会『涼を誘うシブ 玉づくりと乗鞍の名瀑をめぐる』

### シノブ玉づくり

シブは明るい日陰の、岸壁や古木等に着生している古典植物です。

寒さに強く水切れにも強く根茎も老化しながらも新しい根や茎が再生されて、繰り返し生き続けます。

日光に比較的弱く夏には日中長時間直射が当たると衰弱し枯れたりします。手入れ方法に気を配れば長く鑑賞可能な比較的強い植物なんです。今回は夏は風鈴を付けて軒先などに下げ、冬場は玄関などでお皿に乗せて鑑賞できるタイプです。

### 5.6.7.8.9月のシノブ

- ・日光を80%位遮った状態が最適です。
- ・木漏れ日がちらちら当たるよじずの内側が最適です。
- ・水掛は乾いたら水中にそっと漬け込み(30秒程度)やさしく水掛しましょう。

### 秋から冬場のシノブ

- ・葉が黄色になってきたらそろそろ皿に移して(風鈴を外して)玄関など室内の管理に変更しましょう。
- ・水掛けは時々状況を見て湿らす程度で管理しましょう。

### 編集後記

2015年度も活動開始しました。

四月五月と天候が目まぐるしく変化して気付けば新緑のブナ林の研修会、花の季節から早苗の田園新緑の森へと美しい信州に移り変わっています。今年は白山登山という大イベントを控え、準備を進めています。日本海の恵みも楽しめるように計画中です。大勢の参加をお願いします。表紙の写真は「前穂北尾根VI峰より涸沢岳を望む」5月14日午後の写真です。台風6号の後の快晴の登山日和でした。 Q

信州大学山岳友の会会報 第17号  
発行日：2015年7月21日  
発行：信州大学山岳友の会  
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1  
信州大学山岳友の会事務局  
FAX：0263-37-2438  
E-mail：suims@shinshu-u.ac.jp